

少女にみられた外陰（陰挺包皮）線維腫の一例

昭和34年3月17日 受付

信州大学医学部産婦人科学教室（主任：岩井教授）

相沢英三・小野義夫・中山哲

A Case of Fibroma vulvae (Praeputium clitoridis)
observed in the Girl.

Eizo Aizawa, Yoshio Ono, Tetsu Nakayama

Department of Obstetrics and Gynecology, Faculty of Medicine,
Shinshu University
(Director: Prof. S. Iwai)

まえがき

外陰線維腫は比較的まれな疾患で、主として大陰唇あるいは小陰唇に発生し陰挺包皮に発生する場合はきわめてすくなく、また本症の少女における報告例は内外文献をつうじていまだみあたらない。本症の発生には従来妊娠、閉経、外傷あるいは先天性要因などが関係するといわれているが、われわれは最近外傷による血腫形成が誘因となつたとかんがえられる、11才の少女にみられた陰挺包皮から発生した外陰線維腫の一例を経験したので報告する。

症 例

患者：渡○正○ 11才5ヵ月 小学五年生

初診：昭和34年1月31日

家族歴：父母ならびに同胞4人いずれも健在で特記すべきことはない。

既往歴：1才のとき、かゝるい中耳炎にかゝつたほかには著患をしらず、健康である。月経は初診より約2週間前の1月13日から3日間初潮をみた。昭和32年8月末に机のかどへ外陰部を激突させ、外陰上部に指頭大の血腫を生じ治療を受けたが、当時は腫瘍は存在しなかつたという。

主訴：外陰部の腫瘍

現病歴：血腫を生じてから約9ヵ月後の昭和33年5月末頃に外陰部に小腫瘤のあるのに気付いたが、症状もなく放置しておいたところ、最近になつて増大してきたので当科外来をおとずれた。

現症：年令に比して体格の發育は良好で、身長148cm、体重47.5kg、心・肺・腹部・下肢などに異状なく、乳房は小半球状に膨隆し、腋窩、外陰部にまだ発毛をみない。血色素量92%（ザーリー）、赤血球数481万、白血球数7800、血沈1時間値3、2時間値5、血圧118-68、尿に異常所見をみとめない。

外陰に陰挺包皮左脚の辺縁より示指頭大のやゝ扁

平、不規則形にて表面皺襞にとみ、弾性硬の、みじかい茎をもつて懸垂した腫瘍をみとめる（図1）。

治療：ラボナルによる静脈麻酔のもとに腫瘍を摘除、結紮、縫合し7日目に抜糸した。

摘出物所見：大きさ1.5×1.5×1.0cm、重量0.9g 剖面は淡赤色実質性で、組織学的にはわずかに平滑筋性成分をまじえる比較的ちみつな線維性成分からなり、線維母細胞の新生が旺盛で毛細血管にとみ、表皮下組織には若干の好中球、小円形細胞およびプラズマ球などの浸潤がみとめられる（図2）。

考 按

頻度 外陰線維腫は比較的まれな疾患にぞくし、Fullerton氏は23000例中6例といい、Leonard氏は1917年までに文献から131例をあつめている。わが国における報告例もまだ20数例にすぎない。

年令 生後10ヵ月の乳児にみられた報告（Goldreich 1909）があるが、Kehrer氏は20-52才、Burr氏は35-57才とし、小平氏によればわが国報告例の発見時年令分布は19才3、20才8、30才5、40才5、50才1であるという。また松田氏によると最年少は19才、最年長はNeumann氏の67才で20才以下はまれである。われわれの例は11才であり、年令では最若年といえる。

部位 本腫瘍の発生部位は通常大陰唇、小陰唇、陰挺などであつて、ことに大陰唇がもつとも多い。そのほか陰挺包皮、処女膜、外尿道口周囲、会陰などからも発生する。本例は陰挺包皮から発生したものであるが、同様の例はOttow氏の2例とわが国では山中氏らの1例があるのみである。

形状 おゝむね半球形ないし球形あるいは卵形で、表面は平滑なことが多いが、本例のごとくやや扁平で皺襞にとみ、表面粗澀な結節状ないし分葉状をていすることもある。多くは孤立性で多発することは少な



く、腫瘍は被膜にかこまれ境界は明瞭で被包皮膚は移動性である。腫瘍の増大にともないしばしば茎をもつて懸垂し (Fibroma pendulum permagnum), 茎の長さは 10cm をこえることがある。

大き 一般にほかの部位に発生するものにくらべて大きく、大人頭大にもたつし、わが国では竹之内氏の大陰脣から発生した重量 4100g の報告例がある。これはほかの部位より血管にとみ発育が比較的はやいことと、他人の目につかない恥部であるため訪医がおくれがちとなることなどの理由によるものであろう。しかし悪性腫瘍のような急速な発育はいとなまず、松本氏の例では鶯卵大までに16年、猿橋氏の例では大人頭大 (1130g) までに7年を、矢内原氏の例では 900g までに5年を、山中・河合氏の例では超小児頭大 (500g) までに3年を、また小平氏の例では小児頭大 (430g)

までに7年をようしたという。松田氏ははじめの6年間はとくにみとめるほどはやくなかつたが約3カ月間にくるみ大から超手拳大に発育した例を報告している。妊娠時には血液、リンパ液の供給が大となるので発育がはやまるといわれ、水野氏らは3年前から気付いたが妊娠5カ月以降急速に増大し1,2カ月後に小手拳大となつた例を報じている。二次的变化および悪性化(肉腫化)をおこせば腫瘍はすみやかに増大する。

硬度 多くは弾性硬であるが、二次性変化により、また浮腫、充血、リンパ管拡張などのいわゆる囊腫型 (Zystisches Fibrom) では弾性軟となる。

組織 ほかの部位における線維腫と同様、線維性結合組織が不規則に交錯し、細胞、血管、リンパ管がみつにあるいは粗に交錯して存在する。

二次性変化 一般にはかの部位の線維腫にくらべて二次性変化をおこしやすい。これは有茎發育をするため循環障害をきたしやすいからである。すなわち血液、リンパ液の鬱滞の結果血管、リンパ管の拡張、浮腫、出血などを生じ、また栄養障害により脂肪変性、粘液変性、嚢腫変性、軟化、壊死、石灰沈着および化膿などをおこす。またしばしば肉腫変性をみとめ、Leonard 氏は20%、Hellman & Tonas 氏は22%に悪性変化がみとめられるという。

発生機転 一般線維腫と同様原因は不明であるが、従来、妊娠、月経閉止、外傷が本症の発生に誘因となり得るとかながえられており、また Goldreich 氏が生後10ヵ月乳児の小陰脣に有茎榛実大の線維腫を、Hervieux 氏は臀部に同様先天性線維腫を報告しているごとく先天性素因のあることもあきらかである。われわれの例は外傷により血腫を生じ、そのご1年をへずしておなじ部位に本症の発生をみた点からかながえて、外傷が誘因となつて発生したものであろうと想像される。わが国にはまだ外傷をみとめた報告例はないが、Morestin 氏は挫傷後の血腫から発生した鶏卵大の大陰脣における線維腫を報告し、そのほか Attwengers, Scanzoni, Langenbeck, Demarquany 氏らが外傷からの発生例を報告している。

症状 腫瘍の大きさと発生部位によりことなり、小さいものでは腫脹感およびときとして痒痒感を生ずるほかに自覚症状はないが、鶏卵ないし手拳大以上になると牽引感、坐居、歩行、性交時の障害をきたし、また尿道口附近に発生したものでは早期から排尿障害をおこす。有茎懸垂性に發育したものでは牽引ならびに磨擦によつてビラン、潰瘍を生じ、そのため疼痛、不快感をおこすことがある。そのほか妊娠、月経時に腫瘍の腫大がみとめられるという。

診断 腫瘍の発生部位、形状、硬度などから診断はかならずしも困難ではないが、確定には病理組織学的の検査が必要である。象皮病、脂肪腫、筋腫、肉腫と鑑別を要する。

治療 手術的摘除がおこなわれるが、基底がひろくふかいものでは困難なことがある。

あとがき

本例は外傷による血腫形成が誘因となつたとかながえられる11才の少女陰挺包皮から発生した外陰線維腫の1例で、その発生誘因、発生部位ならびに患者が若年である点に興味がある。

岩井教授の御校閲を感謝する。

文 献

- ①Kehrer, B.: Veit-Stückel, Handbuch d. Gynäkologie 5: 1, 471, 1929. ②小平良貞: 子宮腔部癌と合併した外陰部軟性線維腫, 産婦世界 4: 6, 462, 1952. ③Lebhardt, A.: Seitz-Amreich, Biologie u. Pathologie d. Weibes, 4: 34, 1952. ④松田禎郎: 外陰部懸垂性線維腫の一例, 産婦世界 5: 11, 62, 1953. ⑤水野正司・川島富久子: 妊娠による急速に發育増大した小陰脣懸垂性脂肪性線維腫, 産と婦 19: 3, 56, 1952. ⑥酒向元・加々美孝・吉川康: 稀有なる小陰脣線維腫, 産と婦 14: 4, 1947. ⑦猿橋泰: 巨大なる外陰部線維腫, 産と婦 14: 12, 299, 1947. ⑧竹之内純侃・上原彦六郎: 大陰挺に発生した巨大線維腫の一例, 産婦実際 1: 9, 569, 1952. ⑨山中弘一・河合義郎: 陰核包皮右側脚より発生せる軟性線維腫の一例, 産と婦 18: 12, 59, 1951. ⑩矢内原啓太郎: 大陰脣巨大線維腫の一例, 産と婦 5: 996, 1937. ⑪柚木祥三郎: 日本産婦人科全書 9: 1, 172, 1958.